

(様式 1)

令和 3 年度 学力向上を図るための全体計画

学校名	墨田区立隅田小学校
校長名	浮津 あゆみ

1 本校の学力に関する状況

(1) 墨田区学習状況調査結果から

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none">・算数では、知識・技能の観点において全学年で全国平均より上回っている。・国語では、思考力・判断力・表現力の観点において、全学年で平均を概ね上回っている。・英語では、平均値より高い結果となっている。	<ul style="list-style-type: none">・社会科において、基礎的な問題の正答率が低い傾向にある。・理科において全ての観点で平均値より下回っていて、とりわけ思考力・判断力・表現力が低い。・いずれの教科でも記述回答の正答率が目標値と同等かそれ以下の水準にある。

(2) 意識調査結果から

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none">・3、5、6 学年を中心に友達を支えと思ったり学級の絆を感じたりしている。・学級環境のいじめのサインの数値が高いので、児童は比較的安心して過ごせている。	<ul style="list-style-type: none">・学習内容の難易度が高まっていく高学年は学習習慣の数値が低い。・低、中学年は学級の規範意識が低いいため、学級のルールを見直す必要がある。

(3) 墨田区学習状況調査や意識調査以外から明らかになっている学習に関する状況

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none">・タブレット端末やプロジェクターなどの I C T を活用した指導法がいずれの教科においても充実してきた。・ふりかえりシートや学力調査の過去問、自作の類似問題に取り組み、対策を講じることができた。	<ul style="list-style-type: none">・学年や児童の実態によって、I C T を活用する頻度やその方法に偏りがある。・過去問の実施はできていても、問題の解説をする時間が十分に確保できておらず、学習内容の定着が不十分である。

2 本年度の学力向上に関する主な取組

(1) 確かな学力の定着と授業力向上・授業改善

① 教員の相互授業参観・O J T の取り組み

- ・教員を 3 人 1 チームで 7 チームに分けて、チーム内で相互に授業を参観する。
- ・年に 4 回程度の授業公開日を設定し、チーム内で振り返りをする時間を設ける。
- ・年間 8 回、主任教諭による研修の場を設ける。
- ・授業作りや指導法、生活指導の工夫などについて初任者への O J T 研修を随時行う。

② 計画的で分かりやすい授業作り

- ・児童が見通しをもって学習に臨めるようにすると同時に、授業のねらいを明確にするために、一時間のめあてを提示する。
- ・学習内容の定着を図ったり、児童の自己評価に結びけたりするために、学習の終末に、まとめと振り返りを徹底する。
- ・既習学習の理解をより確実にするために、授業の前後にふりかえりシートを活用する。

③ ICT機器の活用・ハイブリッド型授業の展開

- ・ロイロノートを始めとした学習支援アプリを積極的に活用していく。
- ・家庭学習の習慣を身に付けさせるとともに、既習学習の課題を促していくために朝学習や宿題などにミライシードを活用する。

(2) 「主体的・対話的で深い学び」の推進

① 話し合い活動の場の設定

- ・意欲的に自らの意見を交流できる課題を意図的に提示する。
- ・校内研究授業で話し合い活動の場を設定する授業提案をし、効果的な手だてや課題の共通理解を図り、全教員で取り組む。

② 自らの意見を発表できるようにする手だて

- ・自信をもって意見を伝えられるようにするために、自分の考えを構築する時間やその考えの変容を捉える時間を確保する。
- ・自分の意見の根拠となる文や資料などを見付けさせる。
- ・表現力を高めるために、言語活動を全校で取り組む。

(1年：音読 2年：視写 3年：視写 暗唱 4年：音読 5年：情報ノート 6年：短作文 なかよし：音読 読書)

(3) ICTの効果的な活用

① 充実した意見交換

- ・特定の児童だけでなく全員の意見を一度に確認をして交流することができるため、ロイロノートを活用する。

② 資料提示の工夫

- ・児童の学習意欲をより高めるために、映像資料を示したり、児童自身のタブレットに配布したりする。

③ 学習成果の記録

- ・学習の成果物を写真等で記録して、クラスの実態を把握し、課題を抱える児童への具体的な支援に繋げる。

3 「令和4年度 墨田区学習状況調査」における目標

(1) 目標

- ・思考力・判断力・表現力等の正答率は区平均以上にする。
- ・各学年、国語、算数、英語におけるCDE層38%以下、社会、理科CDE層40%以下にする。